

味」はどのように違うのか。これを知ることは、みなさんの外国語の学習にとっても役に立つと思います。外国語が上手に話せるようになりたいと思っているみなさんも、ぜひ本書を読んで、母語であれ、外国語であれ、ことばを使うためには何を知らなければならぬのかというのをいっしょに考えていきましょう。

また、ここで疑問が生まれます。私たちはすでに母語を習得しているので言語についていろいろな知識を持っていて、外国語を学習する時には、その知識を使うことができます。つまり言語の全体像について、言い換えれば、言語とはどういうものかということについて、ある程度のイメージを持っているわけです。例えば私たちは話し声が聴こえた時、それがまったく知らない言語であっても、その声は単語に分けることができ、一つ一つの単語は意味を持ち、単語を組み合わせる規則があって、文がつくられ、それを積み重ねて、その人の気持ちや、知っていること、考えていることを表現しているということを知っていますよね。こういうことをまったく知らずに外国語を学習できるかどうかを想像してみてください。でも、赤ちゃんは実際そのようなことを知らずに生まれてきて、言語というものの全体像もわかりません。それなのに、赤ちゃんはなぜ母語を学習できるのでしょうか？そしてその逆に、大人は言語について子どもよりもずっといろいろなことを知っているのに、外国語

を学習してもなかなか子どものように自由自在に外国語を使いこなすようにならないのはなぜなのでしょう？これが、本書でいう「ことばの発達の謎」です。

本書では、お母さんのおなかにいるときから流暢に話ができるようになるまで、子どもが言語のどのような要素をどのように学習しているのか、「ことばの意味」についてどのように理解しているのか、「ことばの発達」と「思考の発達」はどのような関係にあるのかなどの問題を、子どもを対象にした実験の結果を紐解きながら、認知心理学・認知科学の視点から考えていきます。

子どもが言語を学習する発達の過程は、私たちに実にいろいろなことを教えてくれます。一口に言語といますが、言語は音、文法、単語の意味をはじめとして、さまざまな要素から成り立っています。どのような要素が言語という実体をつくり上げているのか、人は意外と気づいていないものです。子どもが言語について何も知らないところから一つ一つ学んでいくこと、それは、私たちに「ことばとは何か」ということをあらためて考えさせてくれ、言語の仕組みを理解することを手助けしてくれます。

小さい子どもは知識を持たない無力な存在で、大人が助けてあげなければならぬ存在だ、大人からいろいろなことを教えてもらわなければ何も学習できない、と知っている人は多い

のではないのでしょうか。子どもはことばを覚えていく過程で、いろいろな言い間違いをしますね。子どもの言い間違いはかわいいけれど、「あら、うちの子こんなこと間違えて、おぼかさねね」と思ったりしていませんか。とんでもありません。子どもの言い間違いは、おぼかさねどころか、人間という生き物が持つ、自由に、そして無限に新しい知識を創造する力を端的に表しているのです。そのことがわかる例も、たくさん紹介していきます。

子どもは、ことばを学習するとともに思考する力を育み深め、知性を発達させていきます。その過程は、私たち大人に人間の学習する力のすばらしさをも教えてくれます。では、これから子どもたちに導いてもらいながら、言語の性質や仕組みをあらためて理解し、私たち人間にとって言語はどのような存在なのかという問題を考えていきましょう。

平成27年度入学試験 面接「概要とねらい」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 推薦入試Ⅱ 区分(④小または国・英)

言語に関する資料を直前に受験生に読ませ、面接では資料の内容について
集団で討論を行なう。議論への参加態度および発言の内容にもとづいて、
受験生のコミュニケーション能力、文章読解力、表現力、言語および教職
への関心、意欲などについて総合的に評価する。